
書 評 ・ 紹 介

石川義孝編著

『アジア太平洋地域の人口移動』

2005年2月, 明石書店, 407pp.

本書は平成12-14年度科学研究費補助金「アジア太平洋地域における人口移動変化の総合的研究」の研究成果であり、内外の地理学者による論文集である（本書の目次は次ページを参照）。本書の特筆すべき点は、国境という枠に限定されることなく、国内移動・国際移動両方の移動を扱ったことであろう。それだけでも圧倒されるが、この両者をアジア・太平洋という広大で多様な地域に含まれる9カ国（オーストラリア・タイ・中国・カナダ・トルコ・ネパール・マレーシア・日本・アメリカ）について概観しており、非常にスケールの大きな内容となっている。

本書は、第I部「本書の意義と既往研究の潮流」、第II部「国内人口移動」、そして第III部「国際人口移動」から成っている。第I部2章ではスケルドンが過去100年間にわたる人口移動現象と移動研究の潮流について概観する。そして、現在の移動の流れがより多面的になってきていることから、今後の移動研究が進むべき方向として国内移動と国際移動、自発的な移動と強いられる移動との相互関係を吟味し、より包括的なアプローチを産み出す必要があると述べている。過去の移動研究の歴史をふりかえり、今後の研究の進むべき道を示す移動研究者にとって大変参考になる論文である。

第II部で評者にとって興味深かったのは、第6章である。ここではタイのセンサスを用い、バンコクとその近郊の人口移動・人口分布の変化を海外企業からの投資による企業の空間的分布との関係から論じている。立地した企業の業種によっては女性労働者を選好する傾向が強く、それが女性の移動を促し、企業立地地域における性比の変動につながるという関係が時系列で明らかにされている。マレーシアにおいても1980年代後半になされた積極的な海外投資誘致策が効を奏し、自由貿易特区の電子機器・電気関連産業の工場で女性労働者（多くはマレー系）が雇用され、女性（特にマレー系）の移動が促進された。しかし、投資と女性労働者選好、それに呼応する女性の国内移動については、人類学者の丹念なフィールドワークによってその実態が指摘されてはいたものの、データで実証されることはあまり無かったのではないだろうか。貴重な貢献だと思う。

第III部で興味深かったのは、第8章のマレーシア・サラワク州をめぐる国際労働移動である。イバンによるサラワクからパプア・ニューギニアへの労働移動、クニャによるインドネシア・東カリマンタンからサラワクへの労働移動が、サラワク州政府の環境政策、それによる木材伐採企業の国境を越えた操業場所の変更という背景から論じられる。また、マレーシアのエスニック・グループ間で確立されていた階層構造が海外へと移植されていく構図も明らかにされており、非常に興味深かった。

地理学の扱う移動は空間を単位とし、空間をまたぐ人の流れと規模に重点をおく。また、移動距離や方向と空間との関係に着目するなど、非常にフィジカルである。そこでは移動者と非移動者のネットワーク、潜在移動者と社会・経済構造との関係等、個人間のミクロな関係や個人と社会の関係はあまり重視されず、Rural Sociology 出身の評者にとっては少々おもしろさに欠ける。しかし社会への有用性から考えれば、地理学のアプローチは地域計画策定などで非常に有効であろう。掲載されている論文からも多くの知見を得る事ができ、他分野での人口移動に対するアプローチの仕方には新鮮な刺激を受けた。

ただ本書の意義にある「国内・国際移動の連携」については、あと一步と感じた。例えば、個人の移動歴からどのような国内移動経験を経て、いつ、国外のどこへ行き着くのか、といった分析が必要ではないか。また、受入国における国際移動者の居住分布やその後の国内移動など、地理学の抱える課題はまだたくさんある。

目次

第Ⅰ部	本書の意義と既往研究の潮流	
第1章	本書の意義	石川義孝
第2章	人口移動と人口移動研究—人口流動史編纂に向けての序論—	ロナルド・スケルドン
第Ⅱ部	国内人口移動	
第3章	高齢者の移動に関する主要な理論的見解	カオ・リー・リャウ
第4章	オーストラリア、アデレード都市圏における人口移動の距離と方向 —「場の効果」概念を用いた分析—	田中和子
第5章	タイにおける人口移動と人口動態の相互関連	高橋眞一
第6章	バンコクおよびその近郊地域における近年の人口変化 —郊外化・工業立地分散・人口女性化—	中川聡史
第7章	中国の省間人口移動の諸特性—1990年センサスをもとに—	石原 潤
第8章	20世紀後半におけるカナダの人口移動の概観	山田 誠
第Ⅲ部	国際人口移動	
第9章	マクロ・ミクロ二つのレベルでみたトルコの人口移動	金坂清則
第10章	ネパールからの国際労働移動—新しいパターンと動向—	ビム・プラサド・スベディ
第11章	マレーシア・サラワク州をめぐる国際労働移動	祖田亮次
第12章	日本の国際人口移動の転換点	石川義孝
第13章	アメリカ合衆国におけるアジア系移民の動向 —新移民法（1965）以後のハワイ州を事例に—	久武哲也
あとがき		石川義孝

索引

(千年よしみ)